



昔より名高き大政天満のさうり、
 元の主人の今、呂太夫とて澤瑠理の
 大天恵とあり其女房へ京人形と
 潮名と得さる二十二三の美人なるが
 何の程うら其家かのうらうら
 食客と密通して居る事を
 云ふが嗅つけ何の間か詠
 置しや或日一疊敷の大の
 持来るや其女房の背中
 か結ひつけ彼寓公と呼出し此
 京人形と貴さぬの玩物かや
 さうん何處へさうも持行け
 共ニ其家を追出しけり
 愉快なるり、薬なすじやと
 東京日々新聞かき出たり
 ちねんかきし傳へきつてん
 おをさしぬかきし

呂太夫